

皆様 こんにちは

無事5月25日の第15回諏訪赤十字病院の病院祭が終了しました。

期せずして、実行委員長をすることになり、ノウハウのない中、周囲の協力を得て歴代2位の2633人（1位は御柱祭の平成28年度の2735人）のご来場いただいたことに感謝しております。

オープニングでは、実行委員長として当然挨拶をした訳ですが、ある程度事前準備していたものかつてない緊張感に襲われ、予定した流れから外れ、なんとか間をとりながら最低限伝えたかった内容を述べるにとどまりました。

その後の来賓の方々の手慣れたスピーチに聞き惚れ、島崎地区の子供達による花笠踊りや子供神輿に癒やされました。

初の試みであるバルーンリリースのMC時には落ち着きを取り戻し、大空に舞い上がった風船はオープニングを予想以上に華やかなものにしてくれました。

立场上各ブースを回って状況を確認していましたが、その御陰で、いろいろなものを見ることができました。

病院祭といいつつ（もちろん職員も頑張ってくれました）、地域の方々に助けられる面が数多く有り、学生さん達も含め、病院という場所を使ってみんなで手作りのお祭りを作っているような気持ちになりました。

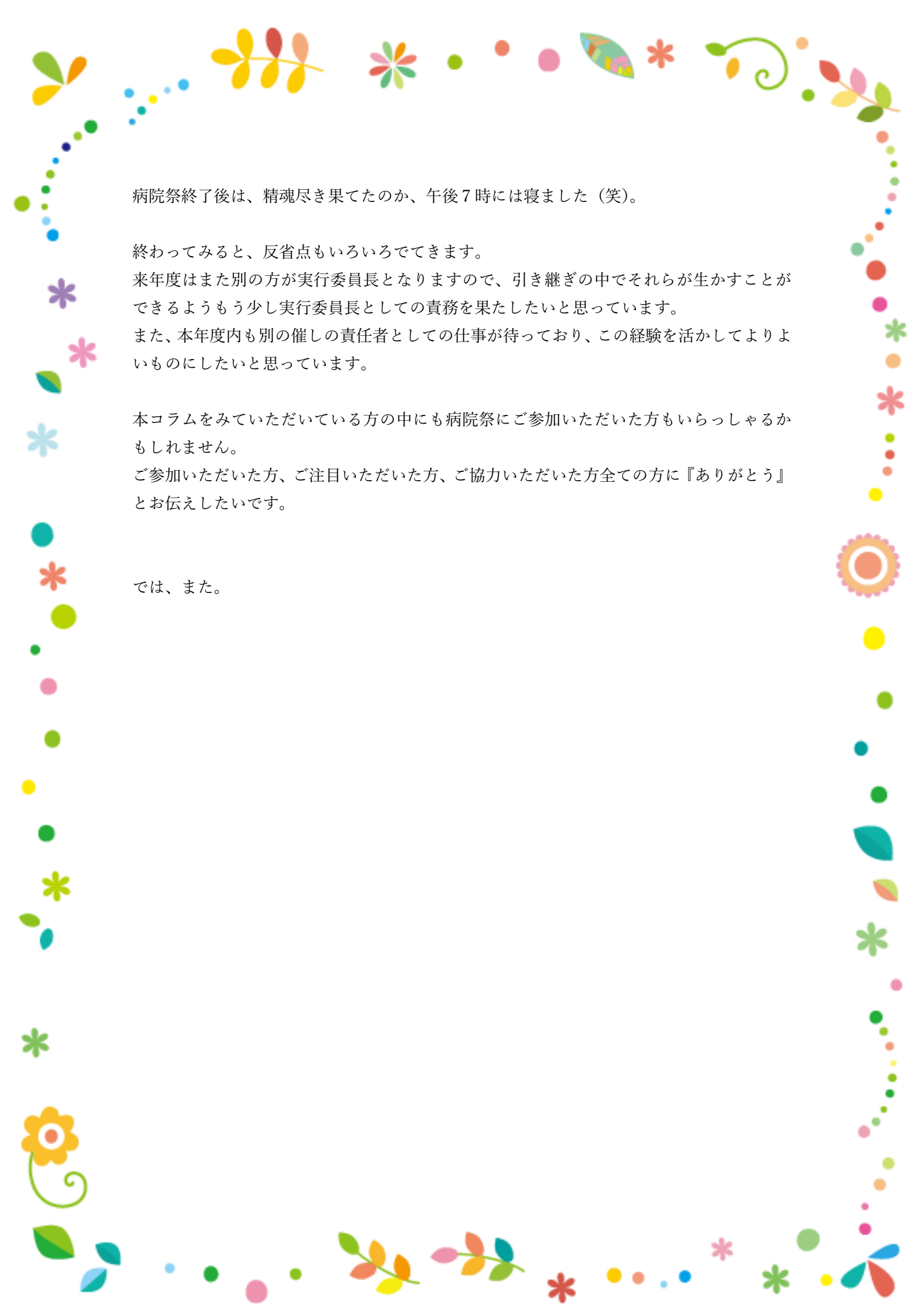
メイン企画は、長野県には関わりの大変深い、松山三四郎さんをお招きしての講演および院長との対談でありました。

講演後の挨拶でも述べましたが、私自身、三四郎さんの『今が輝かないのなら』という曲に力をもらったことがあり、その恩人とも言えるべき三四郎さんに来ていただけたのはこの上ない喜びでした。

打ち合わせなども同席させていただく中、プロフェッショナルとしてのあり方の見本を間近でみることができ、見習うべきところをまねて今後の日常診療にも生かしていきたいと思いました。



役得なのですが、講演終了後、病院祭の企画広報局長を務めてくれた太田課長と三四郎さんといっしょに記念写真をとってもらいました（ご承諾を得たので、ここで公開します）。



病院祭終了後は、精魂尽き果てたのか、午後7時には寝ました（笑）。

終わってみると、反省点もいろいろできます。

来年度はまた別の方が実行委員長となりますので、引き継ぎの中でそれらが生かすことができるようもう少し実行委員長としての責務を果たしたいと思っています。

また、本年度内も別の催しの責任者としての仕事が待っており、この経験を活かしてよりよいものにしたいと思っています。

本コラムをみていただいている方の中にも病院祭にご参加いただいた方もいらっしゃるかもしれません。

ご参加いただいた方、ご注目いただいた方、ご協力いただいた方全ての方に『ありがとう』とお伝えしたいです。

では、また。